

不自由なく暮らすために

井芹中学校 二年 川越 絵里香

「君は普通じゃないから。」

そんな言葉をよく耳にしたことがあります。普通じゃないといじめられ、普通じゃないと学校にも入れず、職業にも就くことができない世の中を不思議に思ったことはありませんか。そんな、「普通じゃない」と言われている人たちのために、なにかできることはないのでしょうか。私の実体験も踏まえて述べていきます。

六年生のある日、私は公園で友達と遊んでいると、小さな女の子に出会いました。その女の子は私たちに笑顔で近づいてきて、何かを言いたそうにしている手で伝えていたけれど、私たちは分からず、その場で困惑していると、父親らしき人が来て「ごめんね。この子耳が聞こえないんだ。」と教えて下さりました。それを知った私たちは、「どうにかこの子と会話がしたい。」と思い、その子が何をし

たいのかを手の仕草や表情から考え、私たちが伝えたいときも、手で分かるようにゆつくりと大きくしてみたり、口パクで話したりなど、いろいろな方法で挑戦して、会話が成り立って女の子が笑顔になってくれたからお互い分かりあえたと思っています。

しかし、今の社会には相手を理解せず、勝手な偏見を持った人が多いと思ったことがあります。少し人と違う発想があったり、みんなと意見やすることが違うこと、できることができなかつたりすると、みんなから目の敵にされ、理不尽な言いがかりをつけていたり、ことをさせてくれなかつたりなど、当たり前前や常識、普通を押しつけられて居場所を失っている人は少なくありません。みんなと違うと何がいけないのでしょうか。私たちが適切な行動をとれば防げるものを、見て見ぬふりをして防ごうとせず、他人事のように助けずに自分を上の立場だと考える。そのような自己中心的な世の中にしなたくないと思ってい

ます。

そのために、一人一人が普通という言葉の意味を変えなければいけないと考えます。自分が全て基準ではなく、周りに見えるすべてが普通であり、常識であると思います。

この他にも、点字を使った公共の場を増やす、私たちの目に見えない障がいをもっている人がいたら、その人が安心できるよう心からサポートする、症状を出したら見て見ぬふりをせずに対応し不安にさせないなど私たちにできることはまだまだあります。相手の事が分からないから理解しないのではなく、相手の事をわからないから理解し、支えあっているべきだと思います。

障がいに対し偏見を持たず、支え、分かち合う事が私たちにできることです。お互いが不自由なく平等に暮らす、そんな社会にしたいです。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--